

山形市健康福祉部生活福祉課殿

「山寺地区」ユニバーサル・デザイン点検活動

目標展開検討報告書

2004 - 2 - 3

山形市福祉のまちづくり活動委員会
ユニバーサル・デザイン点検分科会

1. はじめに

本検討報告書は、山形市健康福祉部生活福祉課よりの委嘱にて山形市福祉のまちづくり活動委員会のユニバーサルデザイン点検分科会が中心になり、障がい者、高齢者、地域に住んでおられる人たちの参画協力を得て実施した点検活動およびそれに続く検討作業をまとめ、今後の継続的まちづくりに活かすために提出するものです。

点検活動の計画、準備から今回の報告書まで参画者の作業方法や検討手法(目標展開手法)の次のようなメリットにご理解をいただいで実施しその結果を取り纏めております。

- (1) 事業の目標の確認及び明確化ができる
- (2) 目標達成のための手段の見落としをなくす(階層構造としての把握)
- (3) 団体、関係者と支援者のコンセンサスを得る
- (4) 重点課題の定量的抽出および共通認識が可能(「重みづけ手法」)
- (5) 重点課題の担当化と実施計画書が作成される
- (6) 業務の【アカウンタビリティ(説明責任、透明性)】に寄与できる

2. 活動メンバーリスト

- (1) 活動分科会メンバーは生活福祉課との協議により次のような構成となりました。

山寺地区リーダー：石山房子 中途全盲者(県リハビリセンターデイサービス通所者)

同サブリーダー：近野孝喜 (社)日本筋ジストロフィー協会山形県支部長

担当メンバー：鈴木幸子 (株)鈴木組バリアフリー住宅相談所所長

〃：高橋玲子 (社)全国脊髄損傷者連合会山形県支部事務局長

〃：高橋孝子 2級ヘルパーとして高齢者在宅訪問実践者

〃：黒沼貞志 (有)SKソリューションズ 代表取締役

バリアフリーマップ更新充実分科会リーダー：高橋真理子 小規模作業所指導員

啓蒙事業分科会メンバー：中村 渡辺長一郎

市コーディネーター：市生活福祉課鞠子係長、高内、無着桂

- (2) 山寺地区参画者

布施邦雄 社会福祉協議会会長

布施栄義 同事務局長

後藤節子 福祉協力員

新関孝夫 振興協議会会長

武田久之進 民生児童員

遠藤正雄 同副委員

水野：観光協会会長

遠藤：観光協会観光部 施設部

公民館事務長：小林

3. 活動経過

* 9月19日:山寺地区点検活動のための下打合せ(11:00～13:00)@山寺公民館

* 9月30日:山寺地区点検活動(10:00～15:30)

参加者 : 20名

- ・ユニバーサルデザイン点検活動分科会メンバー: 8名
- ・バリアフリーマップ更新充実分科会メンバー: 1名
- ・山寺地区参画メンバー: 9名
- ・市職員: 2名

参加者が2班に別れて点検活動を実施

数社のメディアの方々の取材参加も実施され、報道がなされた。

点検終了後公民館にて今後の進め方を協議し、今回の結果の報告を含めこれまで何度かなされた各種検討とは異なることを目指して継続作業に繋げていく事が確認された。

点検終了後の打合せにて参画されたメンバーの方々から点検メモを提出いただき、その内容を検討し次回に報告の機会を持つ事が確認された。

* 12月18日:山寺地区点検活動「中間報告会」@山形市総合福祉センター(13:30～16:00)

山寺地区点検活動参画者から提出された点検メモPC入力資料を配布

各位の指摘事項などをポストイットに書き写し、そのラベル枚数109枚を基に、「目標展開手法」にて階層構造に整理した資料を配布し、参画者に発表しその内容についての確認(合意形成)がなされた。

これらの109項目に対し参画者自らが重要事項を選ぶための重み付け(点数付け)を実施した。

* 12月19日～H16年1月

そのデータの再PC入力を実施し、その集計結果から各位の総意としての「山寺地区のまちづくり」のビジョン、重点課題&方向性として本検討書に纏められた。

4. 検討方法(目標展開検討として)

本検討は以下のステップで関係者の協働作業で実施されています。

ステップ1:

- ・参画されたメンバーの方々から点検メモを提出
- ・点検メモをPC入力(メディアかがやき)
- ・点検メモからポストイットラベル109枚に書き写し(黒沼メンバーを中心に実施)

ステップ2:

- ・ラベルを基に目標展開作業&展開図作成(模造紙上にて、黒沼メンバーを中心に実施)
- ・目標展開図のPC入力作業:アウトツ-シグ(SOHO キャリ・マミーズ)
- ・目標展開図を中間報告会にて関係者へ発表(コメントをフォロー)

ステップ3:

- ・目標展開図&点数入力表による重み付け作業の実施(中間報告会参加者17名による)
- ・点数記入結果のPCデータ入力作業:アウトツ-シグ(SOHO キャリ・マミーズ)

ステップ4:重み付け点数表の集計・整理&報告書作成(黒沼メンバーを中心に実施)

5. 検討結果

(1)目標展開

点検活動参加者から提出された点検メモに基づく目標展開作業を開始するにあたり、最上位の目標(レベル0)を「**山寺に対するユニバーサル・デザイン点検活動を契機に山寺の「住んで**

**いる人達の生活環境」及び「観光地としての環境」が共生・共存可能な将来像(モデル)を作成し
その実行を目指す」と設定しました。**

参加者の広範囲にわたる点検メモの内容を尊重しながらポストイットを用いてラベルに書き写し、そのラベルを【目標展開手法】にて最上位の目標の実現のための手段として階層別に展開し添付資料-1に示しました。

ここでは、階層構造で(レベルー0からレベルー5まで)記載しておりますが、レベルー1はレベルー0の実現のための手段であり、且つレベルー2に対する目標になっております。

順次、この考え方で階層構造として捉えてあります。

(2) 目標展開図内容に対する重み付けおよび重点課題の明確化

目標展開図を参画者に発表しその内容に対する了承を受けて、次に実施した関係者の重み付け作業の結果から見てくる本プロジェクトのビジョン&重点課題は次のようになります。

(a) **【地域住民の意識改革】の推進**(具体的な内容例は以下の例のような項目の実行)

狭い道路を車が占有するケースなどが散見されることから、「福祉のまちづくり」はハードにこだわらず、むしろソフト(運用、しくみづくり)&住民の意識醸成が重要と思われる。

そのため「もてなしの心」での助け合い、自助努力の考えを浸透させ、誰にとっても住みやすいUDの考えを普及し『ユニバーサル・デザインの持つ多様性の活用』を図る。

更には、ボランティア(有償も含めて)のしくみづくりによりハードに頼らない解決方法もあると思われるため「行政の施策で充分でない部分を住民自らの力で補う考えが必要」という認識が住民の中に醸成されるよう努力し、『行政の施策との連携・協働の方法』を検討する。

(b) **【地域づくり手法についての検討】の実施**(具体的な内容例は以下の例のような項目の実行)

『山寺の「福祉のまちづくり」を考える場合は

生活者の視点

外来者(観光客など)の視点との共生・共生

からの検討』が必要

「高齢化率30%近い人的資源の中、観光地山寺で元気に生きる「ハード」「ソフト」「人材」のバランスあるしくみづくり」を実行する

(c) **【施設などハード面の良い点及び改善点項目】の周知と検討**(具体的な内容例は以下の例のような項目の実行)

『全般的事項: 中山間地特有の地形を考慮した諸対策立案』

観光上の視点からの改善ポイント

* 「高齢者・障害者にやさしい山寺」が「売り」になる

* 公共(観光バスも含めて)交通手段との共存

* 歩道そのものがバリアーとなっている

* 大型バスが狭い道路に強引に侵入し非常に歩行者・障害者にとって危険

・河川敷の大駐車場の活用 ・市街地の通行禁止にできないか

生活者の視点からの改善ポイント

* 地理的な条件への配慮

* 高齢者が多い観点と身障者の利便性

* 児童の外遊び(健全成長)の環境

* 住民の車依存度が高いという現状

以前散見された強引な客引は大分改善されているものの平日で観光客も少なめだったが、ハード面は旧態以前の施設・設備が多いため「車社会かつ地方の山寺では車が必需品であることはさげられない現状下でも何か改善策があるはず」であり「「バリアフリー」の考えを住宅内部から街づくりへ展開する場合は歩き易い環境(音・景観を含め)の視点や施設(点)レベルから線&面の視点が必要」である。

立谷川北側施設から見えてきた事例

< 良い点 >

* 公民館のスロープは立派です

* 歩いて来る方のため、駐車スペースにスロープへ案内する手だてを考えると(階段かスロープかを選べるように)

* 冬場は雪で滑るためスロープに手すり設置が望ましい

< 改善点 >

* 山寺で唯一の山寺医院は入口側溝蓋が危険、玄関までのアプローチが急勾配、玄関前段差有り、入口ドアも車イスでは入室困難の印象

* 山寺地区全体の側溝のグレーチングの改善

* 芭蕉橋、宝珠橋への交差点は観光客、自家用車、観光バスなど交通量が平日でもはげしく、ゆっくり観光、買い物ができる環境とは言えない

立谷川南側施設から見えてきた事例

< 良い点 >

* 駐在所からの山寺の景観が良い

* 駐在所のスロープの配慮がなされているのだから更に観光地という観点から多様性のあるトイレがあれば更に素晴らしい

< 改善点 >

* 川沿いの公衆トイレは男・女・身障者と区分するのでなく多目的(共用)の発想、ユニバーサルデザインを導入することで使い易い保守が容易な施設になる

* H9完成の公園のトイレは管理不十分・便座がはずれてしまう、非常用ベルが便座から届かず用をなさない

* 歩道への配慮(目線)が不足:

・夜間・雪路が大変

・住宅への車庫入れ用縁石は歩行者への配慮不足

・歩道への車の占拠を無くすため利用者のモラルアップが望まれる

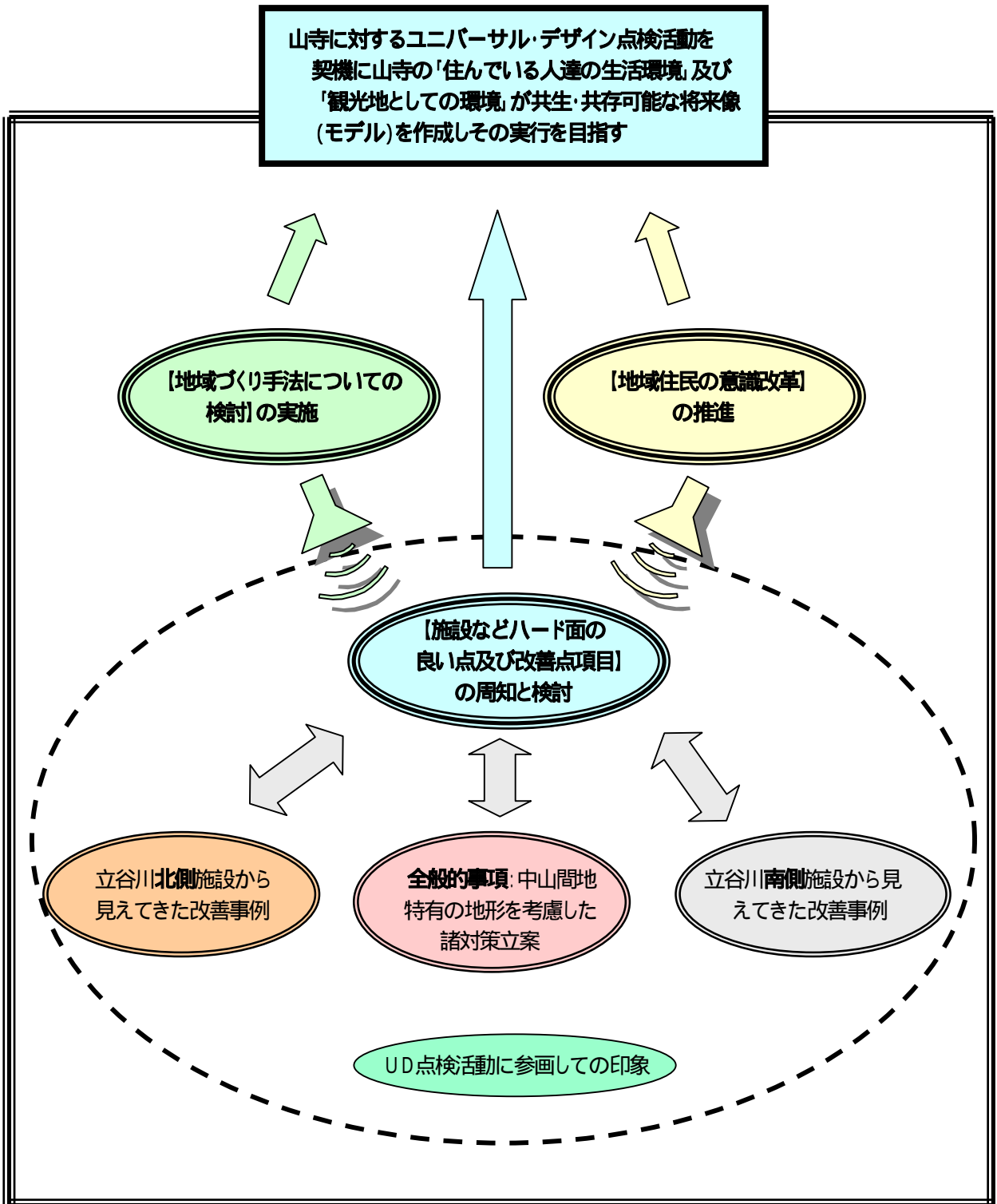
(d)【UD点検活動に参加しての印象】

山寺地区住民の各層の代表による UD 点検が出来たことは素晴らしいことで、この成果を活かすべきである

山寺 UD 点検を準備会&地区民への呼びかけにより住民の関係領域をカバーして実施できて嬉しかった

障害者と同じ目線で物を見ることの難しさ、大事さを痛感させられた

以上の重点課題の関係を図示すると次のようになります。



(3) 重点課題(作業項目)

重み付け作業により抽出されたコンセプトから導かれる当面早急を実施すべき重点課題は添付資料 - 2 (重み付け点数集計結果および重点課題抽出) を基に、6項検討詳細に整理しております。

6. 検討詳述

6.1 目標展開経過

関係者20名の点検活動と提出された点検メモを基にPC入力と共にポストイットラベルに書き写し作業を実施しました。

そのラベル100枚強を基に目標展開作業を行い階層構造の目標展開図に纏めました。

6.2 目標展開図

目標展開図を添付資料 - 1に示します。

時間の制約、討議の程度、参加者数などにより目標展開の深さは項目によってはレベルー2までの展開からレベル5までと一定になっておりません。

展開程度の浅い項目については重み付けを勘案しつつ、今後のプロジェクト遂行過程で具体的な課題実現方法へ展開、反映させていく必要があります。

6.3 目標展開内容に対する重み付け

目標展開のレベルー5までの項目について関係者で実施した重み付け作業の結果を添付資料 2に示します。

重み付けにあたっては全てのラベルに注目し、また、各人の書いた内容や各人の関わる業務にとられることのないように注意して戴きました。

ここでは重み付けの作業方法・内容は省略しますが、その結果から黒沼メンバーを中心に実施した絞込みの内容は添付資料 - 2にマークアップで示してあります。この絞込みの基本は関係者が付けた重み付け点数の集計結果を基本にしております。

さらに、このマークアップしたものについて「サマリー」として添付資料 3に整理してあります。

以上の検討作業及び本プロジェクトのコンセプト、重点課題から「当面の重要検討テーマ」をピックアップし以下に整理しました。

当面の重要検討テーマとその進め方(案)

5項(2)に示されています大きな3つの重点課題を一步ずつ進めていくためには、参画者の方々一人一人が自分に出来る事は何かを考えてグループ&担当化を実施し、それぞれが重点課題の「実行計画書(添付資料 4)」「作業工程表(添付資料 5)」のような様式に沿って作成していくことが必要と思われます。

まず、そのための第1ステップとしては今後の山形市がめざす『「みんながやさしい」山形づくりモデル計画』の一環として位置づけ、そのための継続作業のための構築体制と概略作業工程表についての協議・了承が必要と考えられます。

実行計画書様式 : 添付資料 4

作業工程表様式 : 添付資料 5

構築体制 : 添付資料 6 < 構築体制(試案) > 参照

概略作業工程 : 添付資料 7 < 作業工程表(試案) > 参照